

▶ 第22回目となる今回は、山梨学院大学 経営情報学部 2年 辻本訓章さんが、山梨相互工業 株式会社 代表取締役 田野倉博義氏 を取材しました。



学生

山梨学院大学
経営情報学部

2年 辻本 訓章 さん

時代の変化に 対応する

経営者

山梨相互工業 株式会社
代表取締役

田野倉 博義 氏



▶ **学生** 会社の概要と事業内容について教えてください。

▶ **経営者**

昭和48年4月に株式会社相互設備として発足、昭和52年土木工事を許可業種に加え名称を相互設備興業と社名変更を行いました。その後、昭和55年4月に冷暖房工事を生業とする山梨冷暖房株式会社と対等合併し、社名を「山梨相互工業株式会社」と改め現在に至ります。事業継続年は41年となり、初代社長から数え現在6代目となります。事業内容は建設業における専門工事業のうち管工事業です。一般的に上下水道工事・機械設備工事(建物内の給排水衛生設備工事・冷暖房換気空調設備工事)・消防防災設備等の施工を行う事業です。私たちは主に建物の設備作業をしております。技術が基本となる業界ですので、常に新しい技術、施工の研究を行い、顧客第一主義の事業を行っています。

▶ **学生** 私の実家は水道設備業を営んでおり、今回取材を希望したのですが、業界、求める人材について教えてください。

▶ **経営者**

官工事の中でも建物に関する設備工事は、内装、電気

など他の業種と協力しながら物件を完成させていくので、コミュニケーション、折衝能力が重要となります。例えば、仕事をする上で壁に穴を開けるときにも他の業種の方、また施主の許可が必要になるなど他の業種の方々との連携が求められます。多様な交渉力に加えて人間的なタフさが必要となります。

業界の現状ですが、設備工事業界では高齢化してきていて後を継ぐ人がいない状況です。私のところも後継者はおりませんが、次世代へどう繋げていくかということは常に考えております。さらに、人口の減少化で空き家がでてきたり、新築工事が無くなってきたりして仕事の量が減ってきています。それだけでなく、競争相手も

増加しています。これからは設備の仕事も企画して仕事を作る「提案型」の時代になってきました。ですから、ぶれない考えや固い意志、自分の考えをしっかり持つ人材が求められます。現在零細企業において人材育成の余裕がありません。もし弊社が採用する場合の人材については、即戦力になる有資格者(1級官工事施工管理技士、2級官工事施工管理技士)及び経験者は優遇する予定です。明るくて、素直で、対人的に話し合いができ、自分の思い通りの話の方向へ進めることができるような(自分のペースに引き込める)人材が良いと思います。この業界を目指すのなら揺るぎない信念を持つ、自分の哲学をもって臨んでほしいですね。

取材を終えて…

経営者に質問するというのは初めての体験ということもあり、始めは緊張しましたが経営者の方のお話を聞いていくうちに徐々に緊張を解くことができました。いままで、設備工事業界がどういう業界なのか、現状はどうなっているのかわからない事が多くありました。それが今回の取材で業界の事を知ることができました。そして、興味を持ったことを知るにはその事を事前に知っておくことが必要で、そのためにも人はずばいのかを理解することができました。この事は他の事にも通じることなので今後の人生で活用していきたいと思います。今回の取材はこの事を知ったこと、設備工事業界を知ることができたことで意味のある時間を送ることができたと思います。私の企業レポートのために貴重な時間を割ってくれた関係者の方々には感謝申し上げます。ありがとうございました。

